

～ 秋のダイナミックワールド ～  
赤の1組(年少児)で展開されている遊び

ドングリ村

『木の実拾い』の後、「ドングリに顔を描きたい!」という子どもたちの声から生まれた遊び。拾ってきたドングリに目や口を描いていくと、「こんにちは」「今日は何して遊ぶ?」などと、顔の描かれたドングリを使って遊び出す姿が見られました。そのうちに、「ドングリ君たちが遊べるものがほしい」と、ゼリーカップをつなげて電車をづくり始める子も出てきました。すると、1学期に遊んでいた模造紙に描いた線路があったことを思い出した子どもたち。その模造紙の上に、ドングリ電車を走らせて遊ぶようになりました。それがきっかけで、“ドングリ君のおうちをつくってあげたい” “ドングリ幼稚園もつくろう”などと、その模造紙の中にドングリ村がつくられていきました。ドングリ君と遊ぶ子どもたちを見て、より遊びを楽しんでほしいと、保育者が子どもたちにドングリの帽子を用意すると、今度は、自分たちがドングリになりきって遊び始めました。子どもたちがクレヨンで模様を描いたり、折り紙を糊付けしたりして、クラス全員のオリジナルのドングリ帽子が出来上がりました。



ドングリ村から生まれたもの：その1 ドングリのおうち

ドングリになりきった子どもたちから、「おうちがほしい」という声があがり生まれた遊び。始めは、クラスにあったゴザを壁のように立てておうちに見立てて遊んでいた子どもたち。しかし、すぐに倒れてしまうことから、子どもたちとおうちになりそうな素材をスカイホールへ探しにいき、ダンボールでおうちをつくることになりました。さらに、ドングリが出てくる絵本を見た子どもたちから、「ドングリのおうちは木の上だから、木みたいにしようよ!」「茶色に塗って、屋根もつけよう」「屋根は葉っぱにしたらいいんじゃない?」という声上がり、色づけしたり、葉っぱを貼ったりしておうちをつくっていきました。色づけする際には、「ダイナミックに塗る経験をさせてあげたい」という保育者の思いから、ローラーを使って塗っていきました。出来上がったおうちの中に入って遊んだり、どこのおうちに隠れているのかの“かくれんぼごっこ”をしたりして遊んでいます。



ドングリ村から生まれたもの：その2 ドングリ温泉

保育室に置いてあったダンボールに入り、温泉ごっこが始まったことから生まれた遊び。「もっと広くして、みんなで入れるようにしたい!」という子どもたちの意見から、ダンボールをいくつかつなげた大きい温泉が出来ていきました。1学期の新聞遊びの経験から、新聞紙を小さくちぎってお湯に見立てていった子どもたち。「お湯が出てくるところもあるよね」とのアイデアから、近くにあった太い筒の棒を使い、その中に水に見立てた新聞紙を流し入れる姿も見られました。また、「ドジョウさんも入れてあげよう」という声が聞かれ、みんなでドジョウをつくり、一緒に温泉に入って遊んでいます。



ドングリ村から生まれたもの：その3 ドングリ電車

「ドングリ君の電車は小さくて乗れないから、みんなが乗れる大きな電車をつくろうよ」という声から生まれ遊び。ドングリになった自分たちも乗れるようダンボールをつなぎ合わせ、電車遊びが始まりました。「ライトもつけよう」「ドングリの絵も貼ったら素敵になると思う」と、意見を出し合いながら車体を飾っていきました。ある日、保育者が、サツマイモ堀りの時に畑から持ってきたサツマイモのツルを、何か遊びに使えるそうだといい保育室に置いておくと、それを見つけた子どもの一人が、「これ線路にしたらいいじゃん!」と提案してくれました。それがきっかけで、芋ツルの線路が出来ていきました。さらに、「切符もないとね」「踏み切りもあったら楽しいよね」などのアイデアも生まれ、ホームや踏切、切符も出来ていき、電車ごっこを楽しんでいます。



ドングリ村から生まれたもの：その4 ドングリのケーキ屋さん

木の実拾いやお散歩で拾ったドングリを自由に使えるようにテーブルに出しておいたことがきっかけで生まれた遊び。ドングリを自由に使えるように出しておくと、子どもたちはゼリーなど空き容器に入れ、ケーキに見立てて遊び出しました。始めはつくすることに夢中になっていましたが、保育者が食べるテーブルを用意すると、「いらっしやませ」「なにがいいですか?」などと、売り買いのやりとりも始まり、ケーキ屋さんごっこへと発展していきました。さらに、「イチゴケーキをつくりたい」「チョコケーキもいいね」「カラフルなケーキもあつたらいいな」との声があがったので、いろいろな味になるように、ドングリに色をつけることにしました。今では、ストローや紙をハサミで切って飾りつけに使うなど、盛り付け方も工夫をして、いろいろなケーキをつくることを楽しんでいます。

